

# 『今昔物語集』に見られる「被+V」について

——「天竺部」「震旦部」の用例を通して——

楊 金 萍\*

## A Study of the “*bei+V*” Pattern :

in the Tenjikubu and Sindanbu of *Konjakumonogatarisyu*

YANG Jinping

### abstract

There are many '*bei+V*' sentences in the ancient-Japanese work *Konjakumonogatarisyu*. They can be separated into three sections. The first is the respectful form; the second is the passive form; and the third is the possible form. The respectful form can be separated into two expressions: the regular and the esteem of the writer (speaker). The passive form can be separated into three models: A model of '*…に… bei+V*', B model of '*…の為に… bei + V*', and C model of '*… bei + V*'. A model and C model express the profit, non-profit and neutral passive meanings, but B model can only express the non-profit passive meaning. The possible form is quite different from the formal. This paper points out that both the respectful form and the possible form are the special expressions in the ancient Japanese, and the B model of the passive form is quite different from Chinese passive sentences with *bei*.

Keywords : *bei*, respectful form, passive form, possible form, meaning characteristic

### はじめに

中国語の「被」字は助動詞として使われる時、「被+V」で受動の意味を表すが、『今昔物語集』に数多く見られる「被+V」は受動だけではなく、敬語の意味も、可能の意味もある。つまり、『今昔物語集』の「被+V」は受動表現、敬語表現と可能表現に三分できる。本文では、「天竺部」「震旦部」(以下『今昔』と略する)<sup>(注1)</sup>の用例を通して、「被+V」の形をする敬語表現(以下「被」字敬語表現と称する)、「被+V」の形をする受動表現(以下「被」字受動表現と称する)、「被+V」の形をする可能表現(以下「被」字可能表現と称する)の構造的特徴と意味的特徴を考察する。

### 1. 「被」字敬語表現

古代日本語では「る/らる」で敬語を表す時、次のように「る/らる」は動詞の後ろに付き、助動詞として尊敬の意味を付け加える。

---

キーワード: 「被」字、敬語表現、受動表現、可能表現、意味的特徴

\*平成12年度生 国際日本学専攻(華南師範大学副教授)

例1. 大将いとま申して、福原へこそ帰られけれ。『平家物語・月見』

例2. 無下のことをも仰せらるるものかな。『徒然草・一八八段』

『今昔』の「被」字敬語表現では次のように「被」は「る／らる」と訓まれ、動詞の前に見られる。

例3. 国王ニ申シテ云ク、「其ノ国・其ノ山ニ被求ル、所ノ九色ノ鹿有リ、我レ、其ノ所ヲ知レリ。速ニ軍ヲ給ハリテ取テ可奉シ」ト。(巻第五身色九色鹿、住山出河辺助人語第十八)

例4. 優婆塞、此ヲ見テ、「此ノ失ヘル所ノ牛ハ此比丘ノ盗タルゾ」ト思テ、還テ国王ニ此由ヲ申スニ、国王、宣旨ヲ下シテ、羅漢ヲ捕ヘテ獄ニ被禁ヌ。(巻第三羅漢比丘、為感報在獄語第十七)

このような「被」字敬語表現について、辛島美絵(1990)では日本の漢文文書に見られる「被」字敬語表現が中心に考察されている。天皇、大臣或いは朝廷など地位の高い人に奏する文書なので書き手が自分の畏まり敬う気持ちを表すべきである。つまり、「被」字敬語表現で地位の高い人への畏まり敬う気持ちを表すと言っている。張姪娜(2001)では『万葉集』『古事記』『日本書紀』『懷風藻』などの漢文文献を考察し、「被」字敬語表現は尊敬語だけで、しかも動作主はいずれも天皇、国王、神など絶対的な権利者であると言っている。

しかし、『今昔』の「被」字敬語表現は地の文だけではなく会話文にも見られる。動作主が色々あり、意味的に尊敬表現と配慮表現に分れる。

### 1.1 地の文に見られる「被」字敬語表現

地の文に見られる「被」字敬語表現は51例あり、動作主は国王、大臣など地位の高い者である。これらはいわゆる書き手から動作主への敬意を表す尊敬表現である。

例5. 然レバ、大王无限ク喜テ、占師ヲ召テ、「此ノ懐メル所ノ皇子ハ男カ女カ」ト被問ルニ、占師申シテ云ク、「金色ノ光ヲ放ツ男子可生給シ、」ト占申ス。(巻第四阿育王、殺后立八万四千塔語第三)

例6. 其ノ時ニ、天皇无限ク喜テ半国ヲ可知キ宣旨ヲ被下ヌ。(巻第五国王、為盗人被盜夜光玉語第三)

上2例の動作主は大王や天皇で、国の最高者である。その動作「問う」「下す」を高め、敬う気持ちを表す表現は「被問」「被下」である。

次の例7では動作主は権力者の大臣である。

例7. 然レバ、世ノ人ニモ不似有ケレバ、大臣・公卿有テ、「此ノ国王ハ只ノ事ニモ不在ズ。カクトロメキテ寝ヲノミ眠給フハ、此、必ズ御病ニ在スメリ」ト云テ、其ノ時ノ止事无キ医師共ヲ召シテ被問ケレバ、医師ノ云ク、「此レ御病也。速ニ乳ヲ令服メ可給キ也」ト申ス。(巻第四天竺国王、服乳成臍擬殺耆婆語第卅一)

上例では、国王が寝るばかり、政をしないので、大臣や公卿は相談し、医師たちに病気ではないかと聞いた。医師と比べ、大臣や公卿のほうが地位が高いので、その動作「問う」を高め、敬う気持ちを表す表現は「被問」である。

次の例では動作主は明示されていないが、文脈から考察すれば地位の高いものと分かる。

例8. 然レバ、罪ヲ免シテ被還レヌ。侯均、二十四日ヲ経テ活テ、此事ヲ語りケリトナム語り伝ヘタルトヤ。(巻第六震旦夏ノ侯均、造薬師像得活語第卅四)

上例では、侯均が死んで、地獄に落ちたが、薬師像を作ったことがあるので罪を免じてもらった。罪を免じて、侯均を人間世界に帰らせるのはいうまでもなく地獄の王なので、その動作「還す」を高め、敬う気持ちを表す表現は「被還」である。

つまり、地の文に見られる「被」字敬語表現はいずれも尊敬表現である。動作主が地位の高い者で、その動作を敬うために、「被+V」で書き手が動作主に敬意を表すのであると思われる。

### 1.2 会話文に見られる「被」字敬語表現

会話文に見られる「被」字敬語表現は33例あり、意味的に尊敬表現と配慮表現に分れる。

例9と例10は話し手が動作主である。

例9. 「父ヲ殺シタル者ヲ賞セバ、我レモ其ノ罪難遁カリナム。亦然リトテ、其ノ賞ヲ不被行ズハ既ニ違約也。然レバ離レタル国ヲ可給シ」トテ、一ノ国ヲ給テ、母モ子モ遣シツ。(巻第五国王、狩鹿入山娘被取師子語第二)

これは国王の考えることである。獅子を殺す人には半分の国を分けてあげると言ったが、実に獅子を殺したの

は獅子の子どもである。そのため、賞を行うかどうか悩んでいる。賞を行うのは国王である。話し手の国王が自分の動作に対して「被行」を使い、尊敬表現をする<sup>(注2)</sup>。

例 10. 君、我ヲバ不知ズヤ。我レハ、長拳県ノ令也。可被勘問キ事有テ、君ヲ召シタル也。夫ノ事ヲ令証メムガ故也。(巻第九震旦柳智感、至冥途帰来語第卅一)

これは昼は長拳県の県令をし、夜は地獄で仕事をする智感が参軍の妻に話す話である。智感は聞きたいことがあるので、参軍の妻を地獄に呼び降ろした。「聞く」のは話し手の智感である。参軍の妻に向かっているので相手に対する配慮を表す配慮表現の「被聞」を取っている。

例 11 一例 13 は聞き手が動作主である。このような会話文には配慮表現が多く見られる。

例 11. 国王、此レヲ聞テ喜テ召シニ遣スニ、亦、人、申サク、「彼ノ女ハ年来ノ旧夫有リ。人ノ夫妻ノ間ハ百年ノ契ヲ期ス、離別セム事何ゾ。妻ヲ召サバ、夫定メテ欺キ思ハム故ニ山野ニ交リナム。然レバ先ヅ夫ヲ召取テ罪ヲ被行テ後ニ妻ヲ可召也」ト。(巻第四天竺人、為国王被召妻人、依唱三帰免蛇害語第二十)

国王が美麗である他人の妻を自分の妻にしようと思ったが、ある人(大臣か)は国王に計策を教えた。罪を決定するのは聞き手の国王である。普通、国王を尊敬し、その動作「行」を高めるはずであるが、ほかに「給ふ」「せらる」などのような尊敬表現が使われていないので「被行」は相手に対する配慮を表す配慮表現になっていると思われる。

例 12. 而ル間、官ノ使来テ、此ノ二人ノ子ヲ捕ヘテ、殺サムト為ル時ニ、兄、使ニ云ク、「此ノ事、我ガ犯ス所也。速ニ我レヲ可被殺シ。弟ハ其ノ咎无シ」ト。亦、弟ノ云ク、「兄ハ更ニ殺ス事无シ。此レ、我ガ殺セル所也。然レバ、我レヲ可被殺シ」ト。(巻第九魯洲人、殺隣人不負過語第四)

隣の人を殺した兄弟が捕まえてきた官の使にみな「我レヲ可被殺シ」と言っている。官の使との距離、官の使への配慮する気持ちが感じられる配慮表現は「可被殺シ」である。

例 13. 主ハ蛇ノ如クニ己ニ恩報ズル事コソ无カラメ、己ガ得タル物ヲカク乞ヒ給ヘバ、恠シキ事トハ思ヘドモ少シヲ分テ与フルヲダニ糸由无シト思フニ、何デカ『半分ヲ得』トハ被云ル、ゾ。(巻第五天竺亀、報人恩語第十九)

助けてやった蛇から大金をもらい、大金持ちになった話し手が同じく聞き手を助けてやった。しかし、恩返しもせずに、聞き手が話し手に意外な大金をもらったのを見て半部くれと要求した。其の時の話し手の返事は例 13 である。聞き手の恩知らずにあきれているが、「主」「乞ヒ給」という表現から明らかのように、「被云」も配慮表現であると思われる。

例 14. 菩薩、可然キ御弟子ヲ以テ令問メ給テ云ク、「何レノ所ヨリ何ナル人ノ被来タルゾ」ト。(巻第四龍樹・提婆二菩薩、伝法語第卅五)

提婆がはるばる中天竺から龍樹を訪ねにきた。龍樹の弟子はある聖人が来ていると龍樹に報告した。すると龍樹が弟子に話したのは「何レノ所ヨリ何ナル人ノ被来タルゾ」である。来客がだれでどこから何のために来たかも知らないで、配慮表現の「被来」でまだ会っていない相手に対する配慮を表す。

例 15. 旃陀羅ノ云ク、「国王ノ太子在マス。年、十三ニ成リ給フニ、生レ給テ後、物宣フ事无シ。医家ニ被問ルニ、申シテ云ク、『長髪美麗、世ニ並ビ无カラム女ノ肝ヲ取テ、其ノ薬ニ可充シ』ト云ヘリ。国ノ内ニ被求ルニ汝ニ勝レタル女无シ。然レバ速ニ汝ガ肝ヲ可取シ」ト。(巻第四天竺貧女、書写法花経語第四十)

旃陀羅が貧女に言う話である。旃陀羅はインドの四種姓以外の最下級で、非人とも言われるので、国の最高者である国王の動作「問」「求」を敬っている。したがって、「被問ル」「被求ル」は尊敬表現であると思われる。

### 1.3 「被」字敬語表現の意味的特徴の全体像

『今昔』に見られる「被」字敬語表現は地の文と会話文別に考察してきた。意味的な特徴から考察した結果は表 1 の示すとおりである。地の文では動作主の地位を明示している。一方、会話文では話し手、聞き手、動作主の関係によって敬意が違っているので三者の関係を考慮に入れておく。

表1 『今昔』に見られる「被」字敬語表現

	敬語表現	尊敬表現	配慮表現
	動作主		
会話文	話し手	2	1
	聞き手	11	8
	第三者	10	1
地の文	高位者	51	0
合計		74	10

表1から明らかになるように、『今昔』に見られる「被」字敬語表現は辛島美絵（1990）と張姫娜（2001）の結論と食い違いがある。

辛島美絵（1990）と張姫娜（2001）では「被」字敬語表現はいずれも尊敬表現で、動作主は地位が高いものであると言っている。しかし、『今昔』の場合、地の文ではすべて尊敬表現であるが、会話文では話し手、聞き手、動作主の関係によって尊敬表現もあり、配慮表現もある。

また、地の文では動作主は地位が高いものに限られている。しかし、会話文では動作主は話し手自分自身の例もあり、地位の上下が付かない聞き手や話題の第三者の例もある。

尊敬表現と比べ、配慮表現が10例しかないが、『今昔』に見られる「被」字敬語表現はすべて尊敬表現として使われるとは言い切れないと思われる。

また、尊敬表現として使われる「る／らる」は近代から敬意の程度が低くなるので、これは「被」字表現の配慮表現と関係があるのではないと思われる。

## 2. 「被」字受動表現<sup>(注3)</sup>

古代日本語では「る／らる」で受動を表す時、次のように「る／らる」は動詞の後ろに付き、助動詞として受動の意味を付け加える。

例 16. 舎人が、寝たる足を狐に食はる。『徒然草・二一八段』

例 17. これに教へらるるもをかし。『枕草子・殿などのおはしまさでのち』

『今昔』に見られる「被」字受動表現では、「被」は「る／らる」と訓まれ、動詞の前に見られる。また、構造から例18のようなA型、例19のようなB型、例20のようなC型と分類できる。C型には動作主が明示されていないのでA型やB型と違っているが、A型とB型では動作主の明示法が違っている。A型は「…に」によって動作主を明示し、B型は「…の為に」によって動作主を明示している。

例 18. 三人ノ女、共ニ菩薩ノ御許ニ詣テ申シテ云ク、「公、徳至リ給テ人天ニ被敬給フ事无限シ。我等、年盛ニシテ端正ナル事並ブ者无シ。父ノ天、我等ヲ奉テ供養セシム。朝暮ニ候ハム」ト。(巻第一天魔、擬妨菩薩成道語第六)

例 19. 燈指、漸ク長大スル程ニ、父母亡ジヌ。其ノ後、其家、漸ク崩ジテ、財物、盜賊ノ為ニ被奪レヌ。庫蔵空ク成リ、眷属散リ失セ、妻子弃テ、去ヌ。親族皆絶ヌ、昔シ昵シ人モ今ハ、敵ノ如シ。(巻第二王舎城燈指比丘語第十二)

例 20. 然レバ年来、我が養フニ依テ命ヲ持ツ。而ルニ、カク被捕ヌレバ、母ハ、養フ者无クシテ日来ニ成ヌレバ、定メテ餓ヌラム。此レヲ思フニ、悲ビノ心深シ。(巻第五天竺林中盲象、為母致孝語第廿六)

「被」字受動表現を分析するために、まず動詞の意味的な特徴、つまり動作の結果が受動者に利益のあるか否かによってマイナスの動作で、プラスの動作とニュートラルの動作に分類しておく。そして、動詞の意味的特徴からA型、B型、C型を考察する。

### 2.1 A型「被」字受動表現の意味的特徴

A型では動作主が「…に」によって明示されている。

例 21. 何コトモ不知ズ、象ノ厩ニ立寄タルニ、人有テ、見レバ、女ニ被曳テ一人ノ盲タル人有リ。(巻第四拘拏羅太子、

扶眼依法力得眼語第四)

例 22. 我等、此ノ供養ノ故ニ大衆ニ捕ヘ搦メラレテ被責レナムトス。(巻第四天竺舎衛国髮起長者語第十五)

例 23. 三人ノ女、共ニ菩薩ノ御許ニ詣テ申シテ云ク、「公、徳至リ給テ人天ニ被敬給フ事无限シ。我等、年盛ニシテ端正ナル事並ブ者无シ。父ノ天、我等ヲ奉テ供養セシム。朝暮ニ候ハム」ト。(巻第一天魔、擬妨菩薩成道語第六)

例 21 では、動作「曳」は受動者に不快や不便、不利や傷害を与えず、また利益もない。つまり動作の結果から見れば、動作「曳」はニュートラルの表現である。

例 22 では、動作「責」は受動者に不利なことを与えた。動作の結果で、受動者は大きな傷害を受けた。つまり「責」はマイナスの動作である。

例 23 では、動作「敬」の結果は受動者に大きな利益を与えた。天人に尊敬されること、人々に崇敬されることは名誉なことであり、プラスの動作である。

以上のように、A型「被」字受動表現には利益性と関係のないニュートラルの動作、利益に反するマイナスの動作、利益性のあるプラスの動作が使用できる。つまり、A型「被」字受動表現には動作主が明示され、動作主が受動者に対して幅広い動作を施すことができると思われる。

## 2.2 B型「被」字受動表現の意味的特徴

B型では動作主が「…為に」によって明示されている。

例 24. 燈指、漸ク長大スル程ニ、父母亡ジヌ。其ノ後、其家、漸ク崩ジテ、財物、盗賊ノ為ニ被奪レヌ。庫蔵空ク成リ、眷属散リ失セ、妻子弃テ、去ヌ。親族皆絶ヌ、昔シ昵シ人モ今ハ、敵ノ如シ。(巻第二王舎城燈指比丘語第十二)

例 25. 其ノ時ニ、金翅鳥、此事ヲ歎キ悲ムデ、佛ノ御許ニ参テ佛ニ白テ言サク、「海ノ側ノ阿修羅王ノ為ニ我ガ子ヲ被食ル。更ニ可為キ方无シ。何ニシテカ此ノ難ヲ可遁キ。願クハ、佛ケ、此ヲ教シヘ給ヘ」ト。(巻第三金翅鳥子、免修羅難語第十)

例 26. 人有テ、李広ニ此ノ由ヲ告グ。李広、此レヲ聞テ、驚テ来テ見ルニ、実ニ、母、虎ノ為ニ被害レタリ。然レバ、李広、弓箭ヲ取テ、虎ノ跡ヲ尋テ追ヒ行ク。(巻第十李広箭、射立似母巖語第十七)

例 24—例 26 が示すとおり、B型「被」字受動表現の動作(「奪」「食」「害」)はいずれも利益の伴わない動作であり、利益に反するマイナスの動作である。動作主の動作の結果、受動者は大きな傷害を受けた。

## 2.3 C型「被」字受動表現の意味的な特徴

C型では動作主が明示されていないが、動作主がだれであるか文脈から推測できる。

例 27. 其ノ所ニ暫クモ可有キ様无ケレドモ、偏ニ告ヲ信ジテ両日ヲ経ル間ダ、杖ヲ以テ地ヲ掘ルニ、自然ラ地ヨリ財宝被掘出タリ。(巻第四天竺貧人、得富貴語第卅八)

例 28. 「我レ殊勝ノ功德ヲ修セリ。此レ、智恵有ラム僧ニ令見メテ被賛レ被貴レム」ト。(巻第六 震旦梁武帝時、達磨渡語第三)

例 29. 然レバ年来、我ガ養フニ依テ命ヲ持ツ。而ルニ、カク被捕ヌレバ、母ハ、養フ者无クシテ日来ニ成ヌレバ、定メテ餓ヌラム。此レヲ思フニ、悲ビノ心深シ。(巻第五天竺林中盲象、為母致孝語第卅六)

例 27—例 29 の動作を利益性から考察した結果、A型と同じように、動作主の動作として利益性と関係のないニュートラルの動作、利益に反するマイナスの動作、利益性のあるプラスの動作に使用できることが明らかになった。つまり、C型とA型は動作主が明示されるか否かによって構造上違っているが、動作の意味的特徴の違いが見られない。

## 2.4 「被」字受動表現の意味的特徴の全体像

動作の結果に利益を伴っているか否かによってプラスの動作、マイナスの動作、ニュートラルの動作に分れ、それぞれA型、B型、C型に使われる状況は表2の示すとおりである。

表2 『今昔』に見られる「被」字受動表現の意味的特徴

「被」字受動表現	マイナス	ニュートラル	プラス
A型 (34)	18	11	5
B型 (27)	27	0	0
C型 (107)	83	8	16
合計 (168)	128	19	21

表2から明らかになるように、「被」字受動表現には主にマイナスの動作が見られるが、ニュートラルやプラスの動作も使用できる。特に注目すべきなのはB型である。計27例のB型の動作はいずれもマイナスの動作である。つまり、構造上、A型にもB型にも動作主が明示されているが、動作の利益性によって二組に分かれているのである。A型はマイナス、ニュートラル、プラスのいずれにも使われるが、B型はマイナスにだけ使われる。中国語の「被」字構造と比べ、B型は日本語独特なものであるということもできる<sup>(注4)</sup>。

姚振武(1999)では、中国語の「被」字構造では「被」字は被害の意味を表す動詞であり、六朝時代にすでに虚字化され、受動表現に使われるようになった。例30と例31のように、そのパターンは「…被…所V」「…被V」である。

例30. 其王本姓温(中略)因被匈奴所破、西踰葱嶺、遂有其国。『魏書・西域伝』

例31. 或被恶人逐 墜落金剛山 念彼観音力 不能損一毛 『妙法蓮華経』

上2例から明らかになるように、中国語の「被」字構造では「被」の前に「為」が見られない。つまり、中国語には「…為…被+V」のような形をする受動表現がない。一方、『今昔』に見られるB型の「被」字受動表現では、「被」字の前に「為」が見られる。「…為に…被+V」で「被」は「為」と呼応して受動を構成している。これで中国語と日本語の構造上の違いになっていると思われる。

姚振武(1999)と邢福義(2004)では、中国語の「被」字構造は意味的にマイナスの意味とプラスの意味という二つの類型に分類されている<sup>(注5)</sup>。一方、『今昔』に見られる「被」字受動表現は主にマイナスの意味に使用され、場合によってプラスの意味にもニュートラルの意味にも使われる。これが『今昔』に見られる「被」字受動表現の意味的な特徴であり、中国語の「被」字構造と違う所であると思われる。

### 3. 「被」字可能表現

古代日本語では「る/らる」で可能を表す時、次のように「る/らる」は動詞の後ろに付き、助動詞として可能の意味を付け加える。また否定形をとるのが普通である。

例32. 夜一夜寝られず。『大和物語一五六段』

例33. 抜かむとするに、おほかた抜かれず。『徒然草五三段』

『今昔』の「被」字可能表現では次のように「被」は「る/らる」と訓まれ、動詞の前に見られる。

例34. 夢ニ、「僧感ガ『自ラノ身ニ翼生タリ。希有也』ト思テ見レバ、左ノ翼ニハ観无量寿経ノ文有リ、右ノ翼ニハ阿弥陀経ノ文有リ。僧感、此ノ翼ヲ以テ飛バムト為ルニ、身猶少シ重クシテ、不被飛ズ」ト見テ、夢覚ヌ。(卷第六震旦僧感、持観无量寿教阿弥陀経語第四十四)

例35. 只、可然キ所ニ居所ヲ示テ、静ニ一生ヲ被送ラレム、此レ、此ノ生ノ望也。(卷第十孔子逍遥、值榮啓期聞語第十)

『今昔』に見られる「被」字可能表現は上記のような2例だけである。それぞれ肯定表現と否定表現が一例ずつある。

例34では、毎日観无量寿経と阿弥陀経を書き写した僧感が体の両脇に観无量寿経と阿弥陀経でできた翼が生じたという夢を見た。しかし、修行が足りないため、体がおお重いので「不被飛ズ」、つまり「飛ぶことができない」。「不被飛ズ」は否定形をしているので、普通の「る/らる」の可能構造と一致していると思われる<sup>(注6)</sup>。

一方、例35では「被送ラレム」は「送ることができるであろうこと」という意味で、肯定の形をしている可能表現である。つまり、当時否定形で使われる「る/らる」の可能表現と違っている構造をしている。このような構造はごく特殊なものであると思われる。

しかし、『今昔』では「被」字可能表現の例が少ないので詳しい考察ができないが、例35のような肯定の可能表現があることに十分注意すべきであると思われる。

#### 4. 「被+V」構造の発生

『今昔』に見られる「被+V」構造では「被」が「る／らる」と訓まれ、後接の動詞と合わせて敬語表現、可能表現、受動表現になっている。しかし、構造上中国語の「被」字構造と一致していながら、文法的な役割と意味的特徴は中国語と違っている。

中国語の「被」字構造で敬意を表す文法表現がない。「被」が「る／らる」と訓まれるので、受動の「被」字と関係があるのではないかと思われる学者がいる<sup>(註7)</sup>。太田辰夫(1981)では「被」字はもともと敬意を表す動詞としても使われるのでこれと関係があるのではないかと言っている。つまり、「被」字敬語表現は動詞としての「被」字からできたものと言っている。

日本語において「被」字が「る／らる」と固定的に訓まれる。このような訓読から尊敬の意味を獲得すると思われる。従って、「被」字敬語表現は中国語の「被」字構造にはない文法表現として日本語独自の展開であると思われる。

一方、「被」字受動表現については相当中国語の影響を受けているものと思われる。森博達(1999)ではこれが「為+人+見」の誤読であると言っている。

『今昔』の漢文出典と比較すると、「被」字構造及び「為+動作主+所+V」と一定の関係が見られる。

例36. 我レ、死セシ時ニ、冥官ニ被捕レテ一ノ官曹ニ至ル、庁事甚ダ大ナル形也。其ノ庭甚ダ広クシテ、庭ノ中ニ誠メ置タル人極テ多シ。(卷第七震旦右監門校尉、李山龍、誦法花得活語第三十)

漢文：當死時被冥官收録至一官曹庁事甚宏状広大内有数千人或枷鎖或柵械皆北面立満庭中 『法苑珠林卷20致敬篇第9感応縁』

例37. 三人ノ女、共ニ菩薩ノ御許ニ詣テ申シテ云ク、「公、徳至リ給テ人天ニ被敬給フ事无限シ。我等、年盛ニシテ端正ナル事並ブ者无シ。父ノ天、我等ヲ奉テ供養セシム。朝暮ニ候ハム」ト。(卷第一天魔、擬妨菩薩成道語第六)

漢文：三天女白菩薩言仁者至徳天人所敬应有供侍我等今者在盛時天女端正無踰我者天今遣我以相供給晨昏寢臥顧侍左右 『過去現在因果経卷第三』

例38. 其ノ時ニ、一人ノ大臣有リ、今、外ヨリ来テ此ノ人ノ被捕タルヲ見テ云ク、『此レ何ニ依テゾ』ト。(卷第二波羅奈国大臣、願子語第廿五)

漢文：時有大臣從外邇来見此一人而被困執便問王左右何縁以尔 『賢愚経卷第1恆迦達品第6』

漢文出典との間に些細の差が見られるが、漢文では「被+動作主+V」「動作主+所+V」の形をする時、『今昔』では「被」字受動表現で示されている。

また、例39の示すように、『今昔』のB型「…為に…被+V」に対応する漢文は「為+動作主+所+V」である。

例39. 其ノ時ニ、佛ノ御弟子ノ、諸ノ比丘、此レヲ見テ佛ニ白シテ言サク、「迦留陀夷、前世ニ何ナル悪ヲ作テ、婆羅門ノ妻ノ為ニ被殺レテ如此ノ大事ヲ曳出タルゾ」ト。(卷第二舍衛国群賊、殺迦留陀夷語第廿九)

漢文：比求見已而白佛言迦留陀夷本造何悪為婆羅門婦所殺耶 『法苑珠林卷第73殺生部第4』

前述したように、中国語の「被」字構造にはB型のような表現が見られない。従って、B型のような受動表現は中国語の「為+動作主+所+V」を踏まえて独自に作り上げ、特にマイナスの意味を表すものとして使われるパターンであると思われる。

「被」字可能表現については、これは「被」字構造として中国語には見られない表現である。日本語では「被」字が「る／らる」と訓まれる。古代日本語の「る／らる」が可能の助動詞としても使われるので、そこから生じた可能表現の一種であるかと思われる。つまり、「被」字敬語表現と同じく、「被」字可能表現も中国語の「被」字構造とのつながりがなく、日本語独自の表現法であると思われる。

一方、中国語では可能表現として肯定形も否定形も使われる。

例40. 孔子使従者為寧武子臣於衛。然後得去。『史記・孔子世家』

例 41. 不違農時、谷不可勝食也。『孟子・梁惠王下』

例 42 は肯定形をする可能表現の例 35 に対応する中国語の文である。「被」字構造ではないが、可能の意味を表し、しかも肯定形をする。従って、「被」字可能表現に見られる肯定形が中国語の影響でできたものと思われる。

例 42. 貧者士之常也、死者人之終也、処常得終、當何憂哉？『列子・卷第一天瑞第一』

## 6. 結論

本稿では『今昔』に見られる「被」字構造を中心に考察した。「被」字構造は「被」字敬語表現、「被」字受動表現と「被」字可能表現に分れる。「被」字敬語表現では地の文と会話文の間で違いが見られるが、地の文ではすべて尊敬表現、会話文では尊敬表現と配慮表現に分れる。「被」字受動表現では構造的にA型、B型、C型に分れる。構造上中国語の「被」字構造と違っているB型は意味的にはA型やC型と違ってマイナスの意味にのみ使われている。「被」字可能表現では、当時代の「る／らる」可能表現と違って、中国語の影響からできた肯定形をする可能表現もある。

『今昔』の「被+V」は中国語の助動詞「被」字を利用し、さらに独自の使い方と意味合いを作り上げ、日本語独特のものになっていると思われる。

## 注

注 1. 「本朝部」にも同じ使い方が見られるが、漢籍出典との比較もするため、ここでは「天竺部」「震旦部」だけ考察対象とする。なお、文章に見られる古字を一応常用漢字にしておく。

注 2. このような敬語表現は和文文献にも見られ、自敬表現と言われる。天皇など高貴な人が自分の動作に尊敬語を用いたり、相手の動作に謙讓語を用いたりして、自分の権威を示すものである。例えば：(帝)「この女、もし奉りたるものならば、翁に冠を、などか賜はせざらむ。」『竹取物語・御門の求婚』

注 3. 『今昔』に見られる「被」字受動表現について楊(2006)では詳しく論じているので、ここでは分析を簡略にする。

注 4. 瀬間正之(1999)ではこれが中国語の文法に一致していないと言っている。また、張姪娜(2000)では例を挙げて中国語にも「為+動作主+被+V」があると言っている。しかし、張が挙げた「堅後為李林甫誣構被誅、大師懼、奏請與妃離異、於別宮安置。」『舊唐書卷一百一十六列伝第六十六』「如意元年、為来俊臣誣謀反被害。」『舊唐書卷一百九十四下列伝第一百四十四下』は誤読されており、それぞれ「為李林甫誣構」と「被誅」、「為来俊臣誣謀反」「被害」からなっているので、「為+動作主+被+V」ではない。

注 5. 王力(1985)では、『世説新語』には27例の「被」字構造が見られるが、そのうち19例がマイナスの意味に、8例はプラスの意味に使われると言っている。つまり、中国語の「被」字構造は主にマイナス型に属しているが、プラス型も見られる。

注 6. 「本朝部」にも否定の「被」字可能表現がある。例えば：

其後、一言主ノ神、宮城人ニ付テ云ク、「役ノ優婆塞ハ、既ニ謀ヲ成シテ国ヲ傾ケムト為ル也」ト。天皇、此事ヲ聞給テ、驚テ官使ヲ遣テ、優婆塞ヲ令捕メ給フニ、空ニ飛ビ上テ不被捕。『卷第十一役優婆塞、誦持呪駭鬼神語第三』

注 7. 辛島美絵(1993)では「被+V」は受動の意味にも崇敬の意味にも解釈できると言っている。

## 参考文献

- [1] 『古代漢語辞典』編写組(1998)『古代漢語辞典』商務印書館(2002年8月南京第六刷)
- [2] 赫琳(2001)「先秦“被動”式“見動”式再認識」『古漢語研究』第3号
- [3] 唐鈺明、周錫馥(1985)「論先秦漢語被動式的發展」『中国語文』第4号
- [4] 王力(1958)『漢語史稿』中華書局(2003年3月北京第六刷)
- [5] 王力(1985)『漢語發展史』商務印書館
- [6] 邢福義(2004)「承賜型“被”字句」『語言研究』第1号
- [7] 顔景常(1981)「『詩經』『論語』中“為”字用法初探」『淮陰師專學報』第1号
- [8] 顔景常(1982)「戦国時代的“為、動”結構」『淮陰師專學報』第1号
- [9] 姚振武(1999)「先秦漢語受事主語句系統」『中国語文』第1号
- [10] 楊金萍(2005)「試析多音多義字在日語中的訓讀——以『妙法蓮華經』之“為”為例」『日語研究』第3号

- [11] 楊金萍 (2006) 『『今昔物語集』“被”字被動式研究——以「天竺部」「震旦部」之具体实例為中心』『日語研究』第4号
- [12] 楊金萍・肖平 (2007) 「和漢混合体文献中“被”字構造句解析」『日語學習與研究』第4号
- [13] 張姪娜 (2000) 「被の被動式の誤用について——『日本書紀』を中心に」『湘南文学』第34号
- [14] 張姪娜 (2001) 「上代における「被」字受動文の崇敬用法」『湘南文学』第35号
- [15] 大坪併治 (1961) 『訓点語の研究』風間書房
- [16] 大坪併治 (1968) 『訓点資料の研究』風間書房
- [17] 小林芳規 (1967) 『平安鎌倉時代における漢籍訓讀の国語史的研究』東京大学出版会
- [18] 辛島美絵 (1990) 「古文書における「る・らる(被)」の特色」『語文研究』(71)
- [19] 辛島美絵 (1993) 「「る・らる」の尊敬用法の発生と展開——古文書他の用例から」『国語学』(172)
- [20] 榎本福寿 (1993) 「『日本書紀』の被動式に異義あり」『記紀と漢文学』
- [21] 瀬間正之 (1999) 「漢字で書かれたことば——訓読的思惟をめぐって」『国語と国文学』
- [22] 築島裕 (1996) 『平安時代訓点本論考——研究篇』汲古書院
- [23] 堀畑正臣 (1990) 「記録体(公家日記)に於ける「以(人)被(動詞)」(以テ~ラル)の文型について——その用例集を兼ね、主語と動詞の特徴をさぐる——」『尚綱大学研究紀要』第13号
- [24] 森博達 (1999) 『『日本書紀』の謎を解く 述作者は誰か』中央公論新社
- [25] 山田孝雄 (1935) 『漢文の訓読によりて伝えられたる語法』宝文館

(2007年12月1日受理)